

# 男女共同参画社会 - 人間の尊厳に生きる

## ～ 昨今の 出・来・事 から ～

問い合わせ 市民参画課男女共同参画推進担当 ☎38-2023(大原町2-6 ラ・モール芦屋2階)

わが国においては、「日本国憲法」に個人の尊重、法の下での平等がうたわれ、男女平等の実現に向けたさまざまな取り組みが着実に進められてきました。しかしながら、現実の社会においては男女間の不平等を感じる人も多く、いっそうの努力が必要とされています。今回は、「男女共同参画社会」の実現に向けて私たち一人ひとりがどのように取り組んでいけばよいのか、本市男女共同参画推進委員会・高島委員長にご提言をいただきました。



高島 進子(たかしま のぶこ)氏  
神戸女学院大学名誉教授  
芦屋市男女共同参画推進委員会委員長

食や住、人を運ぶ自動車や鉄道等をめぐって、さらに子どもや女性への虐待や暴力など、人の生命と生活に関わる事故や事件が後を断ちません。これらの背景には、もちろん、さまざまな社会的要因が個々に考えられますが、その背後に、性別による偏った人間観や社会の在り方に問題はないでしょうか。もし社会・文化が、もっぱら、一般に、いわゆる男らしさに固有とされる、合理的な合理的な精神や目的をもった意思等々を軸としてではなく、現実には、人間の多様な特性を個々にもっている男女の平等な協働の上に組み立てられ、動いていけば、これ程までの社会的暴走はないのでは、という思いがあります。

収益性を優先させ、その目標達成のために、最も効率的な手段を選ぶことを価値とする目的合理的な近代社会は、社会・文化的な男女の不均衡な在り方を強め、固定化したことは否めません。日本においても、明治近代以降、男性と共に女性も殖産興業・富国強兵を支え働いてきましたが、戦後の「家族だのみの企業中心社会」における同様、女性たちは社会から大いに頼られながら、法制度や慣行の制約の下で「独りでは生きにくい」補助的な市民であったといえます。

しかし、このバランスを欠いた男性と女性の在り方は、一方で女性の世界とされがちな生身の感覚や感性とともにある、計算通り・思い通りにはいかない手間暇かかる生活現場から離れたところに展開される外(公)の世界において、目的のためには手段を選ばずの蛮行や社会的強者による社会的弱者・子どもや女性、障がいのある人や高齢者への力の行使を横行させています。

児童虐待は、英語で「child abuse」です。「abuse」は、「子どもや女性への性的暴行」も意味しますが、また「abuse of the earth」は、「人間による自然支配・破壊」といえます。さらに、「abuse of the privilege」「abuse of position」は、各々、「公の世界での特権や地位の乱用」を意味します。ここにあるのは、自然や人をモノとみて恥じず、個々の人間の尊厳が見えない、結局、自らの人としての誇り・品位をどこかに置き忘れた病める人と社会・文化のすがたです。

「男女共同参画社会」の目指すかたちを初めて示した「男女共同参画ビジョン - 21世紀の新たな価値の創造(男女共同参画審議会 1996)」に、「それは、人権尊重の理念を社会に深く根づかせ、真の男女平等の達成を目指すもの」であり、「女性と男性が、社会的・文化的に形成された性別(ジェンダー)に縛られず、各人の個性に基づいて共同参画する社会の実現を目指すものである」とあります。この的確に表明された理念は高邁ですが、その第一歩は、男女共に独りひとりが自分を大切に思う自尊の心を持ち、それを育み続けること、この大切な自分がどのような生き方を選ぶと、平安としあわせのうちに生を全うすることが平等に保障されることを強く願い続けることに尽きるのではないのでしょうか。しかし、このことはいうまでもなく、口でいうほど易しいことではありません。それは、各人が人は、すべからく平等に、その基本的人権が守られるべき尊厳ある存在であることを自覚し、生きるために同じく保障されている「人権・自由」を行使していくためには、強靱な意思と根気強い努力が欠かせないからです。生きる力とは、おそらくこのような内発的な「知」・自覚と行動の力であり、そこにはじめて、自分をも人をも大切に思う・思える公平で、公正な共同の世界は生まれるはずで。

いま、「男女共同参画社会」に向けてこの社会に欠けているのは、男女共に自らまもり、育むべき人権とその尊重の意識、そして何よりそれを根拠づける人としての気高さへの内発的なめざめではないのでしょうか。「男女共同参画社会」の理念も、人間の尊厳と人権の尊重という人類普遍的な文化の創造をうたっています。

今日、不幸にも自分を大切に思わない・思えない人たちが、子どもから大人まで増えています。自分はどうなってもいいと思うと、人をもまた同じように思うでしょう。遠回りでも時間のかかることですが、自分をも、人をも大切に思う、思える社会・文化への転換は、男女共に生きる力を培いながら、根気強くこの普遍的な価値を社会に根づかせていくことをおいてないでしょう。

各時代は固有の問題や課題を提起しながら、自然や人間、社会への認識を深めてくれ、人間の希望や理想の実現を後押ししてくれるようです。民主主義の徹底である「男女共同参画社会」も、今日、わたくしたちに投げかけられているそのひとつなのでしょう。

### 芦屋川カレッジ(高齢者大学)

問い合わせ 公民館 ☎35-0700/FAX22-6924(〒659-0068 業平町8-24)

#### 芦屋川カレッジ第23期生募集

期間 5月10日～平成19年3月14日、毎週水曜日<必修コース36回、選択コース15回>  
会場 市民センター 401室ほか コース 【必修コース】午前10時～11時30分(全員が受講)【選択コース】3週間に1回、午後1時15分～2時45分 / 「ひと・まち・あしや」コース(あなたの心にHit、動きにMatch、芦屋の魅力を訪ねて)、「多文化共生」コース(多文化共生と21世紀を考える) 定員 とも各55人 対象 市内在住の満60歳以上のかたで、初めて受講するかた 受講料 年間12,600円

#### 芦屋川カレッジ聴講生の募集

対象 芦屋川カレッジ修了生 定員 各50人 受講料 年間2,800円 コース 芦屋川カレッジの選択コース(「ひと・まち・あしや」または「多文化共生」コース)のいずれか

#### 芦屋川セカンド・カレッジ

期間 《Aコース》5月15日～平成19年3月19日(全10回) 原則・第3月曜日 / 《Bコース》5月11日～平成19年3月8日(全10回) 原則・第2木曜日 / いずれも午前10時～11時30分 会場 市民センター 401室 内容 《Aコース》「信長・秀吉・家康が見ていた世界～人物像からみえてくるもの」(城から見た信長・秀吉・家康)奈良大学・千田善博氏ほか / 《Bコース》「今、中国が熱い!!～歴史から読み解く発展の秘密」(中国史入門)関西大学教授・藤田窓夫氏ほか 定員 各コース100人(1コースに限る) 受講料 年間3,100円

【申し込み】 希望事業とコース名 住所 氏名 電話番号 第2希望があればその旨 芦屋川カレッジに申し込みのかたは生年月日と年齢、それ以外は修了期を明記し、はがきかファクスで公民館へ。3月31日(金)消印有効。応募者多数の場合抽選(市内在住優先)定員に満たない場合は、引き続き先着順で受け付けます。受講決定者には、はがきで詳細をご連絡します。

### 女性センターからのお知らせ

3月4日(土)開催の「女性センターフェスタ」のなかで、皆様のご協力により「バザー」も盛況に終えることができました。以前にもお知らせしましたとおり、売上金95,650円は、全額を「ドメスティック・バイオレンス(DV)被害者を支援する活動団体」に寄附いたしました。ご協力、ありがとうございました。

問い合わせ 女性センター ☎38-2023(大原町2-6 ラ・モール芦屋2階)

### 「広報あしや」有料広告募集

掲載ページ 1日号・8ページ広告欄 / 15日号・4ページ広告欄  
広告料 1種広告(66mm×120mm)・50,000円 いずれも完全版下で提出。版下作成には別途費用が必要。  
2種広告(66mm×246mm)・100,000円  
掲載の範囲 市の広報紙としての品位・公共性・公益性を妨げないものであり、市民に不利益を与えない中立性のあるものに限り。本市ホームページの「『広報あしや』広告取扱要領」参照。  
申し込み 広報発行日の30日前までに、市長あての「広告掲載申込書」に広告案を添えて、取り扱い代理店(一新社 緯06-6231-2103)へ。  
その他 広報課で審査し、掲載許可(不許可)のご連絡をします。

問い合わせ 広報課 緯38-2006

### 市ホームページ・バナ - 広告募集

掲載ページ 芦屋市ホームページのトップページ  
広告料 1枠あたり月額15,000円(掲載期間1カ月単位)  
縦60ピクセル×横100ピクセル(GIF形式)、4キロバイト以内  
広告原稿は、フロッピーディスク等により提出してください。  
広告料金は、市指定の納付書で納付してください。  
広告の内容 市の広報媒体としての品位・公共性・公益性を妨げないものであり、市民に不利益を与えないものとします。  
申し込み 「芦屋市ホームページ広告掲載申込書」に広告案を添えて、広報課へ。詳細は、市ホームページのトップページ「バナ - 広告募集」をご覧ください。

問い合わせ 広報課 緯38-2006(<http://www.city.ashiya.hyogo.jp>)